

WEL・NET

通信

- 表紙 WEL・NET Rehab Garden 完成！
- 特集 チームで行う摂食嚥下療法
- 地域リハビリ研修会・新任医師のご紹介・イベントなど

2020.7

発行日 令和2年 7月 1日
発行 西広島リハビリテーション病院
事業局
☎ 082-921-3230 (代表)
URL <http://www.welnet.jp/>
E-mail wel@welnet.jp

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介しますの広報誌です



WEL・NET 2020.4 完成！ Rehab Garden ウェルネット リハ ガーデン



バリアフリー法に基づいて設計された角度の違うスロープや階段を使用して、歩行訓練や介助指導が行える庭園です。青空のもと、四季折々の草花や眼下に見える瀬戸内海の風景を楽しみながら、のびのびとリハビリを行っていただけます。

WEL・NETのロゴをモチーフにしています。



医療法人社団朋和会

西広島リハビリテーション病院

チームで行う摂食嚥下療法

口から食べることを目指す取り組み

口から食べることは、栄養をとり体をつくることはもちろん、生活の喜びや楽しみ、リハビリへのモチベーションUPなどにもつながります。当院では、「障害があっても口から食べられる」ことを目指して、多くの専門職によるチーム医療で摂食嚥下療法に取り組んでいます。



言語聴覚士に聞きました!

わたなべ みつこ
渡邊 光子
言語聴覚士・主任

Q 摂食嚥下療法はどのように行いますか?

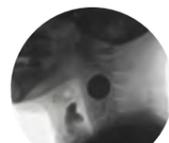
A 摂食嚥下療法には、口や喉の筋肉を鍛える、義歯を調整する、食形態や食べ方を工夫する、などの方法があります。これらを多角的に検討するため、多くの専門職によるチームで治療を行います(右図)。各専門職が専門分野のスキルを活かしつつ、全員がお互いの役割を把握し、活発に意見を出し合ったり議論したりすることで、患者さんにとって一番良い方法を検討していきます。

Q 摂食嚥下療法における言語聴覚士の役割は?

A 摂食嚥下療法の専門職として口や喉の機能を調べたり、医師が行うVF・VE検査に立ち会い、リハビリプランの立案をチームの中心となって行います。

Q VF・VE検査とは?

A 喉の動きを撮影し観察する検査です。VF(嚥下造影検査)はX線を使って撮影する検査で、嚥下時の喉の奥の動きまでしっかり観察できます。VE(嚥下内視鏡検査)は内視鏡を鼻から挿入して撮影する検査で、気管と食道の入口までしか撮影できませんが、患者さんのベッドサイドでも実施することができます。



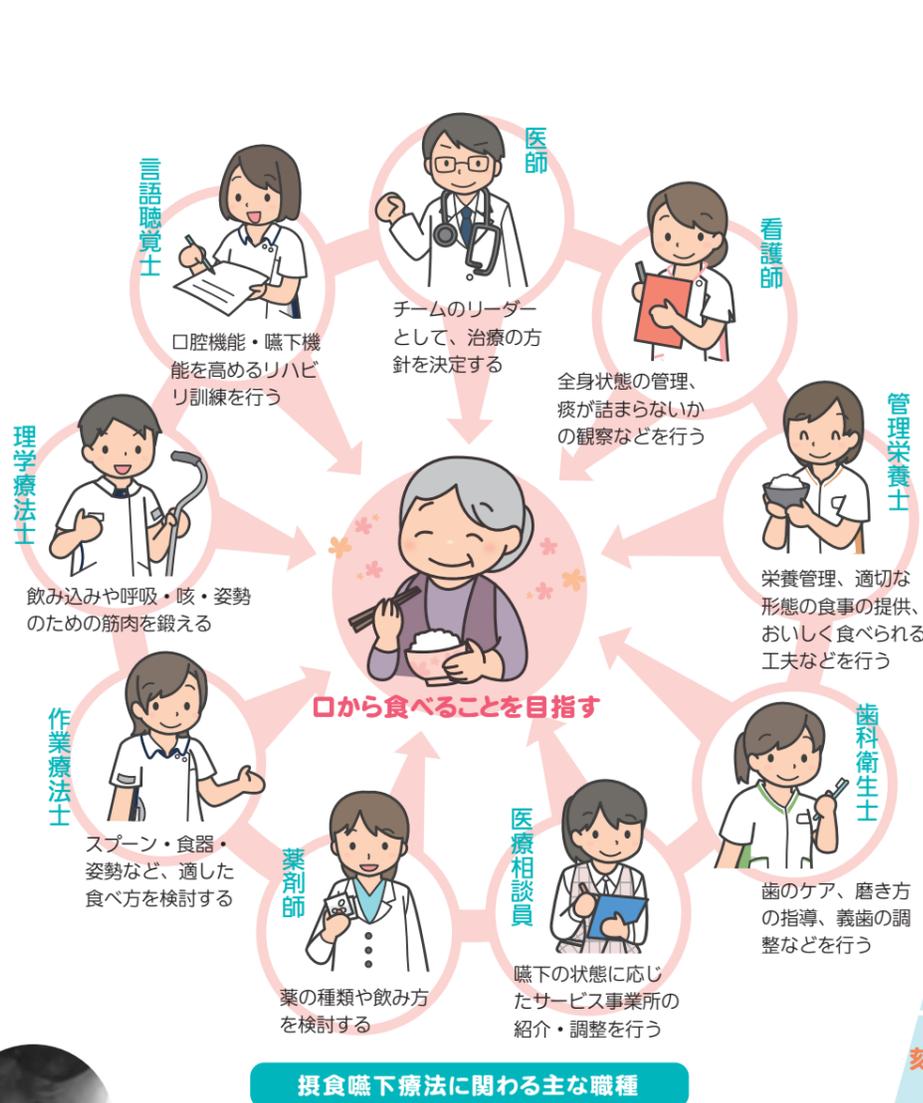
VFの映像



VEの映像

Q 嚥下障害がある方への食事の形態は?

A 2020年4月より、日本摂食嚥下リハビリテーション学会が定めた「学会分類2013」を導入しています(右図)。共通言語といえる分類を用いることで、急性期病院や退院後の事業者さんとも分かりやすく、効率的な情報共有ができるようになりました。



※写真は、(左)ごはん(中)たまねぎと赤魚の煮つけ(右)なすの煮物です。

管理栄養士に聞きました!

かげやま のりこ
影山 典子
管理栄養士・栄養課課長



Q 病棟での管理栄養士の役割は?

A 栄養状態が良くなければリハビリも行えません。まずは患者さんの**栄養管理が第一**です。そして、食事は入院生活の中でも楽しみの一つですから、**安全でおいしい食事を提供**することがとても大切だと思います。

Q 摂食嚥下療法における管理栄養士の役割は?

A どういった食事なら安全に食べられるのかをチームで決定し、管理栄養士が**その形態の食事を間違いなく提供**します。たくさんは食べられない場合もあるため、栄養管理にも気を配ります。訓練が進んで口から食べられるようになってくると、**患者さんの表情も変わり、生き生きしてこられるのが分かる**んですよ。

Q 嚥下調整食について、工夫していることはありますか?

A ミキサー食などは、何の料理か分かるように、料理の上にペーストで魚や豚など食材の絵を描いたりします。食材を別々にミキサーにかけて、色を残したりもします。使える調味料が限られてしまうため、味に変化を出すために加工品のムースなどを使うこともあります。このように、**色・見た目・味で楽しめる工夫**を心掛けています(左図)。

当院では全病棟・老健で検食を行っており、職員から上がってくる検食簿の意見も参考にしながら、日々改善を図っています。

2019 テーマ 介護要らずで元気に過ごそう

高齢者の運動不足や病気は、寝たきりのきっかけになります。介護要らずで元気に過ごすために、生活にどんなことを取り入れたら良いでしょうか？ 脳卒中の予防、健康管理、生活習慣、運動習慣、食事のことなど、リハビリ病院の専門家がそれぞれの視点でお話しします。

(本誌では、第4回～5回
の様子をご報告します)



- 1 脳卒中の予防と基礎知識
- 2 バランスの良い食事
簡単・便利に！
- 3 毎日の健康管理と口腔ケア
- 4 しっかり食べられる
口とどのどの鍛え方
- 5 転倒しにくい体づくり

4 しっかり食べられる口とどの鍛え方

NO.118

10月12日(土) 参加者：31名
講師：長谷川 雄紀(医師)・重川 由香(言語聴覚士・副主任)

食べ物がうまく食べられなくなる「摂食・嚥下障害」について、基礎知識・原因・チェック方法をお話ししました。また、予防のための体操をご紹介して、参加者の皆さんと一緒に実践しました。



参加者の声

- 年齢を加えるに従い歯が悪くなり何かと困りますが、勉強になりました。(一般参加者)
- モグモグ～ゴホンを実習したのが良かった。家でできる。(一般参加者)
- 介護している母のためにも、私にも役立ちました。日ごろ無意識に行っていたことを再認識できました。(ご家族)

5 転倒しにくい体づくり

NO.119

11月2日(土) 参加者：38名
講師：釜屋 真二(理学療法士・副主任)・玉代 浩章(作業療法士・副主任)

転倒予防のポイントを、筋力・バランス・柔軟性・環境面の4つに分け、それぞれの改善のために必要な体操と注意事項をご紹介しました。参加者の皆さんはお互いに声を掛け合いながら体操をされていました。



参加者の声

- 具体的で家で実践できそうなことを教えていただいたのでやろうと思う。
- 自分の筋力・柔軟性等が分かった。対策の筋トレが分かりやすく取り組みやすく、参考にできました。(一般参加者)
- 転倒に関しては常に気を付けており、すごく有難く聞くことができました。

退任



はせがわ ゆうき
医師 長谷川 雄紀

2年間にわたり勤務していただきました。慈恵医大の医局人事により、4月より慈恵医大附属柏病院に異動となりました。



異動前にささやかな送別イベントを行いました。

新任



いのうえ みき
医師 井上 実緒

出身地 島根県

趣味

- サイクリング
(糖尿病や高脂血症への運動療法の効果をもっと知りました)
- 茶道

担当病棟 主に西館2階・本館2階病棟

専門 内科・リハ科(リハビリテーション科専門医)

メッセージ 4月より勤めさせていただいております。内科医として僻地での診療に従事した後に、リハビリテーション科医としての経験を積みました。回復期病棟の入院患者さんも高齢化が進み、併存疾患のある方がほとんどです。内科医としての経験を生かしたりリハビリテーションを提供する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年度 地域リハビリ研修会 中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の地域リハビリ研修会は中止させていただくこととなりました。



西リハ情報箱 開設！

新しい情報サイトを開設しました。お家でもできる体操などをご紹介します。過去の地域リハビリ研修会の内容など随時更新していく予定です。



退院患者さんや地域の皆様へ、生活に役立つリハビリの情報をお届けするサイトです！



スマートフォンからご利用の方は、QRコードをご利用ください。



パソコンからご利用の方は、西リハホームページにあるこちらのボタンをクリックしてください。

広テレ「テレビ派」取材 リハビリロボットの可能性 (RE-Gait®)

📅 2019.11.5



リハビリロボット [RE-Gait®]の訓練について、広島テレビの取材を受けました。RE-Gait® は、足関節の背屈（つま先を上げる動き）や底屈（地面を蹴り出す動き）をサポートする機器です。装着して繰り返し歩行練習をすることで、**脳に正しい歩行パターンを学習させる**ことを目的としています。

収録された映像は11月12日の「テレビ派」にて放送されました。

地域の皆さんとふれあうイベント 第34回 佐伯区民祭り

📅 2019.11.10 📍 佐伯区民文化センター



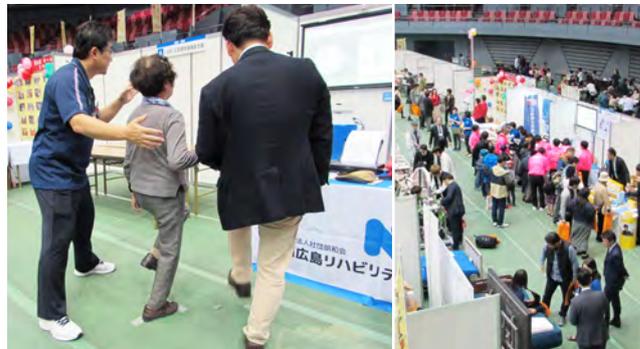
佐伯区民祭りに参加し、体組成測定・ロコモスキャン・握力測定などを体験していただけるブースを出展しました。出展は今年で13回目となります。

「もっといける!」「がんばって!」等スタッフの応援が響く中、体組成測定が174名、ロコモスキャンが92名と、今年も多くの皆さんに測定を体験していただきました。皆さんが自分の身体について知り、健康への意識を持ってもらう機会となれば幸いです。

11月11日は介護の日! 介護の日フェスタ in 広島

(グリーンアリーナ)

📅 2019.11.9-10 📍 広島県立総合体育館



介護の日フェスタに出展し、当院とシステムフレンドで共同開発した「MMV 鑑-AKIRA-」をご紹介しました。MMV 鑑-AKIRA- は、KINECT を用いて患者さんの関節可動域（関節をどのくらい動かせるか）を測定する装置です。会場では参加者の足を上げた時の姿勢を計測し、結果について療法士が解説とアドバイスを行いました。2日間とも大盛況で、合わせて228名の皆さんに測定を体験していただきました。

令和元年度 第2回 広島県回復期リハの会 研修会

📅 2019.12.4 📍 広島県医師会館ホール



回復期病棟における失語症患者への対応をテーマに研修会を行い、240名の参加がありました。講演内容は以下の通りです。

青木 志郎 先生 失語症の基礎知識、具体的症状について
(広島大学大学院 医系科学研究科 脳神経内科学 医師)

山根 ゆかり 先生 コミュニケーション支援の方法について
(広島市立リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)

沖田 啓子 先生 在宅復帰を見据えたリハビリについて
(広島国際大学 リハビリテーション学科 教授 言語聴覚士)

職員のメディア掲載・学会発表情報です。(2019年10月～2020年4月)



※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点でのものであり、現在は変更している可能性があります。 ※ 筆頭発表者・執筆者のみ表記しています。

※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士 CP:公認心理師 RD:管理栄養士

認定・資格取得

2019.8	一般社団法人 ICAA リンパ浮腫専門看護師	森井 奈津子 (NS)
2019.10.13	一般社団法人 ICAA 一般社団法人インターメディアリクニカルアロマセラピー協会 メディカルアロマ専門看護師	森井 奈津子 (NS)
2019.11.1	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士	原田 ひかる (健康運動指導士)

外部講演

2019.10.23	ダイハツ広島 健康安全運転講座 自分の身体を知ろう！ーいつまでも自動車運転を続けるためにー	藤高 祐太 (PT・副主任)
2019.10.25	第14回介護研修会 講演 I 回復期リハビリテーション病棟総論 24時間を支えるリハビリテーション 介護職に期待すること	岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2019.10.25	総合リハビリテーション伊予病院 医療安全研修会 みんなで取り組む医療安全	杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長)
2019.11.8	神戸リハビリテーション病院 医療安全研修会 多職種で取り組む医療安全 西広島リハビリテーション病院の取り組み	杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長) / 福江 亮 (PT・RM)
2019.11.8	公益社団法人広島県理学療法士会広島 南支部研修会 PTに必要なスライドデザインー作成ルールと思考の整理からスライドを考えるー	藤高 祐太 (PT・副主任)
2019.11.21	リハビリテーション・ケア合同研究大会金沢 2019 シンポジウム 2 地域の人々と響きあう～共生社会のために医療機関ができること～ 当法人の地域リハビリテーション活動	岡本 隆嗣 (DR・病院長) / 岡 光孝 (OT・地域連携部副部長)
2019.11.23	第9回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 特別シンポジウム 診療報酬・介護報酬におけるリハと栄養の位置付けおよび展望 リハビリテーションの中で栄養をどう考えるか ～回復期・生活期を中心に～	岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2019.11.30	第49回PTOTST研修会 基調講演『今、PT・OT・STに伝えたいこと』 回復期リハビリテーション病棟の質向上を目指して	岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2020.2.18	第18回西区・佐伯区合同地域保健対策協議会シンポジウム 高齢者のリハビリテーション～サルコペニア、フレイルなど～	岡本 隆嗣 (DR・病院長)

学会発表

2019.11.9	第17回日本運動処方学会大会 メディカルフィットネスにおける健康運動指導士を中心としたメタボリックシンドローム改善プログラムの効果について	伊藤 三千雄 (健康運動指導士)
2019.11.21 -22	リハビリテーション・ケア合同研究大会金沢 2019 回復期における音楽を用いた趣味活動の獲得と退院後の調査 ～主体的な活動・参加の向上に向けたアプローチ～	小池 みなみ (音楽療法士)

2019.11.21 -22	リハビリテーション・ケア合同研究大会金沢 2019 研究実績集積を管理・活用できる仕組みに変える	内藤 恵美 (事務員)
2020.2.8 -9	第6回 歩行リハビリテーション研究会 下腿切断患者一例に対する Honda 歩行アシストの介入効果	渡邊 匠 (PT・副主任)

専門雑誌・書籍

2019.11.1	箱庭療法学研究 第32巻 第2号 pp.15-27 脳血管・神経筋疾患患者の心理的回復過程 入退院時のバウムテストの変化に着目して	田福 陽子 (CP)
2019.11.10	リハビリナース 第12巻 6号 症状別のアセスメント・ケア pp.19-24 6 失語 沖田 啓子 (ST・リハビリ部顧問・広島国際大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科 教授) pp.25-29 7 半側空間無視 山根 伸吾 (OT・嘱託・広島大学大学院 医系科学研究科 助教授) pp.37-42 9 失行 白岡 幸子 (OT・教育部門主任)	
2019.12	コミュニケーション障害学 36巻 3号 p.145 失語症者の階層性アプリの操作能力 ハード面からの分析	白川 由莉奈 (ST)
2020.1.1	HPTA NEWS One step No.260 pp.9-10 ダイハツ × 広島県理学療法士会 健康安全+運転講座 地域密着プロジェクト (健康安全運転講座) について	藤高 祐太 (PT・副主任)
2020.1	リハビリナース 第13巻 1号 pp.54-60 回リハ病棟でのキケンな場面 徹底対策！ 多職種での共有、連携、再発防止にむけて インシデントレポートをただの報告書で終わらせない取り組み	杉本 真理子 (NS・副院長・看護介護部部長)
2020.2.10	総合リハビリテーション 第48巻 2号 pp.132-142 特集 回復期リハビリテーションに求められるもの 「退院支援と退院後のフォローアップ」	岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2020.2.15	生活期のリハビリテーション医学・医療テキスト pp.32-35 1 診断・目標設定・治療方針・リハビリテーション処方	岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2020.2.27	病院の実力 2020 総合編 p.29 先駆的なリハビリ専門病院 手厚い人員配置ときめ細かな対応で効果的なリハビリを提供 退院後のフォローと地域の活性化も重視	岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2020.3.10	総合リハビリテーション 第48巻 第3号 pp.255-260 実践講座 ケースレポート・脳損傷の在宅リハビリテーション3ー 失語症者に対する訪問リハビリテーションの役割	荏原 幸恵 (ST)
2020.3	作業療法ジャーナル 第54巻 第3号 p.278 学会・研修会印象記 リハビリテーション・ケア合同研究大会 金沢 2019	上森 奨悟 (OT)
2020.4.1	HPTA NEWS One step No.261 pp.7-8 知っておきたい！理学療法士に必要なリハビリテーション栄養	中臺 久恵 (PT)
2020.4.30	回復期リハビリテーション病棟協会機関誌 2020年4月号 pp.32-34 特集 2020年度診療報酬改定 3-1 退院後の生活を支えるリハビリ テーション退院前カンファレンスと生活期リハビリテーション会議 ーリハビリテーションマネジメントの視点からー	岡本 隆嗣 (DR・病院長)
2020.4.30	日本リハビリテーション病院・施設協会誌 2020年特別号 No.175 pp.47-49 シンポジウム 地域の人々と響きあう～共生社会のために医療機関ができること	岡本 隆嗣 (DR・病院長)



職員が選ぶ
あいさつマイスター2019

しらかわ ゆりな
言語聴覚士 白川 由莉奈



あいさつ
マイスター
2019

患者さんが選ぶ
あいさつマイスター2019

とよなが ありさ
医療相談員 豊永 亜里沙



笑顔のあいさつの秘訣は？ できるだけ相手の方と目を合わせるようにして、顔を覚えていただけるよう意識しています。

あいさつマイスターについて一言！ これらの取り組みによって、患者さんに対してだけでなく職員同士でもあいさつができていますので、院内が明るい雰囲気になってとても良いと思います。

年に1回投票によりあいさつの素敵な職員を表彰しています。2019年のマイスターに選ばれた2名の職員にインタビューしました！

笑顔のあいさつの秘訣は？ 相手に視線を向け、明るい声ではっきりとした口調であいさつすることを心掛けています。また、マスクをしていても笑顔が伝わるよう、目で作る笑顔も意識しています。

あいさつマイスターについて一言！ 私も自ら率先してあいさつできるように、継続して心掛けていきたいです。

医療法人社団朋和会 基本理念

信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。たしか信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きなご満足をいただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見定め、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会
初代理事長 岡本則昭

医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅6丁目265番地
TEL (082) 921-3230 (代表)
FAX (082) 921-3237 E-mail wel@welnet.jp
URL <http://www.welnet.jp/>

★ 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約30分 ★ 広電楽々園駅より車で約10分 ★ JR五日市駅南口よりバスで15分

